

設計に合わせたパネル加工を下請け

三菱商事建材 積極的な受注を展開

三菱商事建材（東京都渋谷区）は木造スケルトン請負サービス事業の拡大を進めている。昨年4月に本格的に事業を開始し、これまでにテストマーケティングも含め、100棟以上を引き渡してきた。来期は300棟程度の受注を見込んでいる。

「木造スケルトン請負サービス」は、提携工場で生産した構造躯体、サッシと断熱材を一体化した「木造大型パネル」を現場に搬入し、30坪台前半の一般的な住宅であれば上棟当日に一次防水と施錠まで完了して引き渡すことができる。コストは、350万～400万円程度。

同事業は顧客の設計仕様に従ったパネル化という「受託加工」が特徴。従来のパネル工法は規格化や制約条件があり、設計が一部制限されるなどの課題があった。「受託加工」は発注者である工務店の設計意図をそのまま、パネルにする「パネル下請事業」という考えだ。

現在、提携工場は全国に5カ所。ミサワホームの木質パネルを製造するテクノエフアンドシー（東京都杉並区）の工場で生産している。

付加断熱工法で断熱強化を図ることもでき、ZEHにも対応する。付加断熱まで含めすべてを工場で生産できる。

4トン・ロングのクレーンとパネルを積んだトラックが現場まで入れることが条件になる。

10月5・6日の2日間、埼玉県八潮市で15戸3階建ての賃貸住宅の上棟工事があった。1階あたりのパネル数は16枚。1日目は朝8時から17時までで、3階の床組みまで終え、2日目は3階と屋根までの工程で、昼頃には工事が完了した。今回の物件では、断熱材をグラスウールにするため、元請け工務店が現場でサッシと断熱材を施工する形式だったが、大幅に工期が短縮できた。

同現場には、賃貸住宅の供給会社や大規模ビルダーなどが見学に訪れていた。現場の人手不足の対策として導入に関心を示していた。

同社では、供給範囲の拡大に向け、地域のプレカット会社にも技術移転を進め、より細かな供給ネットワーク体制を整えていく考えだ。

現場にはトラックでパネルを搬入する



【写真上】一般的な金物を使うため、パネル加工ができるスペースがあれば一般的なプレカット工場でも対応可能
【写真右】パネルをクレーンで吊り上げて、決まった場所に納める。施工まで請け負うが、材料だけのケースも少なくないという



パネルは所定の位置に設置し、ピンでとめる



15戸、3階建ての木造賃貸住宅の躯体工事が1.5日間で完了した。今回はサッシ、断熱材は後付けだが、組み込みの場合でも現場の作業は同じ